

## ★ 姫逃池の伝説 ★

長者原に、昔々、長者屋敷があって、お雪はその娘だった。近くに住む山賊がお雪を「嫁にほしい」と迫ってきた。

困った長者は、お雪を手放す決心をした。これを聞いたお雪の恋人の若者は、山賊の群れに一人で切り込んだ。

多人数と一人ではとてもかなわず、若者は討たれてしまった。お雪は悲しみ、池に飛び込んで若者の後を追った。

毎年6月になると、紫と白のカキツバタが花を咲かせる。カキツバタの紫の花はお雪、白の花は若者の霊だともいわれている。



▲ 姫逃石

姫逃池の畔にある大岩は、若者が山賊を切りつけた刃先によりきれいに二つに割れた石と伝えられ、姫逃石といわれています。石の切れ目に小枝を落とし、途中で引っかかって落ちなかった時は恋が成就するといわれ、恋占石とも呼ばれています。

## ＝ 姫逃池への行き方 ＝

JR大田市駅よりバスで約50分。国立三瓶青少年交流の家下車徒歩3分。JR大田市駅から車で約20分。

詳しくは、

北三瓶まちづくりセンター ☎ 0854-86-0478

または

県立三瓶自然館サヒメル ☎ 0854-86-0500 まで。

## 表紙

## あの頃

## ～ 仁万変電所前の潮川（昭和25年頃）～

表紙は昭和25年頃に小学生が潮川の清掃活動をしている写真です。

昭和21年から現在の場所で美容室を営業しておられる、仁摩町仁万の佐々木文子さん（96歳）に当時のお話を聞かせていただきました。

表紙の写真には写っていないけど、その当時にもう少し上流（写真の下側）にもう一つ木の橋があり、仁摩中学校へ通う生徒さんや、変電所に勤める方など多くの人が利用していました。

川の中で小石を集めて中洲をつくり、そこから子どもたちが魚釣りをして遊んでいました。また真夏の暑い夜には、それぞれが持ち寄ったゴザを敷いて、橋の上で夕涼みをしていました。川面を渡る風はとても涼しく、気持のよいものでした。そして夜空を見上げると、満天の星空からまるで星が降るようでした。



現在

今は川幅が広くなり何の心配もありませんが、この周囲は排水が悪く大雨のたびに床上まで浸水し、後片付けが大変でした。今では懐かしい思い出です。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail:o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索